

設計コンサルタント業務等成果の向上に関する懇談会の検討状況

	問題意識	改善の方向性	具体的な進め方	検討スケジュール
業務成績評定と技術提案の能力を重視した好循環の構築	●詳細設計業務等にも技術力の評価が必要である	◆詳細設計業務等への「総合評価方式」の導入	14件の測量、詳細設計、地質調査等の業務において、「加算方式」を適用し、価格点1:技術点1~3で試行。入札結果等について検証。	①
	●プロポーザル方式を実施すべき業務で実施されていない	◆「プロポーザル方式」の適正な運用	『プロポーザル方式』の適正な運用を図る。	②
	●建設会社のノウハウを設計に反映しにくい	◆一部事業への「詳細設計付き工事発注方式」の活用	施工段階で手戻りが多い工事等を施工者に担わせる『詳細設計付き工事発注方式』の活用を検討。(水門工事や電線共同溝工事等で試行)	②
	●設計ミスが多発している	◆「設計成果品の品質評価」の導入	業務完了検査後に設計業務受注者以外の第三者に委託して実施。全地方整備局で試行。	①
	●設計瑕疵が業務成績評定に反映されていない	◆品質評価結果の業務成績評定への反映	修正すべき箇所が設計瑕疵と認められる場合には、設計業務受注者に対して瑕疵修補請求を行うとともに、瑕疵の内容に応じて業務成績評定点の修正(減点)。業務成績評定の修正(減点)基準などを検討。	②
	●業務成績評定が業者選定に十分に活用されていない	◆業務成績評定の業者選定への反映	一定の業務成績評定点以下の業務実績は、技術審査において業務実績として扱わないことを検討するとともに、「総合評価方式」における業務成績評定の評価項目として取り入れることを検討。	③
	●指名競争入札等では高い技術力を持った者が新規参入しにくい	◆「簡易公募型」契約方式の活用	高い技術力を有した者による競争性を確保するため、「総合評価方式」と併せて『簡易公募型』契約方式の活用を検討。	②
	●設計思想を施工者に十分に伝達できていない	◆発注者・設計者・施工者による「三者会議」の実施	平成19年度において構造物を主体とする工事を対象に「三者会議」を実施。	①
好循環システムの構築の補完方策	●下半期発注の集中による履行期間不足が生じている	◆上半期発注の徹底、発注予定情報の早期公表	十分な履行期間を確保するため、上半期での業務発注の徹底。全地整における上半期発注の徹底に関する文書発出。	①
	●入札契約手続き期間が長期化している	◆入札契約手続きの簡素化	技術提案書の作成、評価を1日で行う『即日プロポーザル方式』の活用を検討。また、同方式の総合評価方式への適用の可能性も併せて検討。	②
	●低価格受注案件は成果品の品質低下が懸念される	◆低入対策の強化	「低入札価格調査制度」を平成19年4月に導入済。今後、価格構造の実態を把握するため、業務完了後に実際のコスト内訳の提出を求める「業務コスト調査」を導入。	①
	●再委託の実態と問題点がつかめていない	◆再委託の実態調査、改善方策の検討	再委託が設計コンサルタント業務等成果の品質に与える影響を把握するため、再委託の実態調査を行い、必要に応じて改善方策を検討。	②
	●業務内容に応じた適切な設計フィーになっていない	◆積算手法の見直し	「業務コスト調査」を低入札価格調査対象業務以外の業務にも一部実施するなど、実態に即した積算手法のあり方を検討。	④
	●成果がコスト縮減を含めた最適案になっていない	◆設計VEの積極的な活用	社会資本に求められる機能・品質を設計成果へ確実に反映するとともに、ライフサイクルコストを考慮した総合的なコスト縮減を図るため、VE手法を積極的に活用。	④
	●受注者に対して業務の履行に的確な指示等ができない	◆調査職員の監督(調査)体制の強化	調査職員の体制強化や『ワンデイ・レスポンス』の励行など、監督(調査)機能の強化方策を検討。	③

① H19年度上半期中に実施(検討)予定 ③ H19年度中に実施(検討)予定
 ② H19年内中に実施(検討)予定 ④ H20年度以降に実施(検討)予定